

海濤法師との対談を終えて

この4月28日から台湾の著名な高僧 海濤法師との対談を終えて改めて神々しく品格のある風貌に圧倒され続けました。法話の内容もずば抜けて崇高であったし日本の僧侶でこれだけの人は会ったことはありません。一切の肉食はしない完全なる菜食であったし立ち居振る舞いにも厳かしさが滲み出ていた印象です。側近の僧侶の方も魅力的な人たちでした。これから日本の僧侶は海外の寺院で修行を積むべきなのではないかと思わせられました。どんどん惹きつけられましたので私はこれからはもう海外寺院や外国人僧侶とだけ付き合ってもよいのかなとも思いました。先日もミャンマー僧侶の満仁さん(悟り寺)たちともお会いして意気投合しました。僧侶とはこうあるべきというその真髓を心得ている人たちです。ますます日本の僧侶が胡散臭く感じるようにはなりませんでした。彼らはお金は一切扱わないそうです。濁世(じょくせ)にまみれることはなく浮世離れした聖性には頭が下がるばかりです。人柄も素晴らしかったのでつくづく日本の僧侶との格の違いを見せつけられました。私も反省させられること頻りでした。弟子たちはもう日本で育てるのではなく海外で修行をさせたいと本気で思っています。日本では資格だけ取らせてさっさと外国で本物の仏教を身につけて欲しいと思います。対談の様子は動画に収録されていますがまさに

これが仏教と言える内容かと思えます。 昨日は宗教新聞 明日は経済誌の記者が取材に来られます。メディアもまた動き出してくれています。コロナ禍が終息しつつある中 宗門はどこへ向かうのか。インバウンドとともに外国人僧侶が黒船のように襲来されています。覚醒を促してくれているようです。激しい二極化時代になっていく中で日本のお寺はひょっとかすると外国の寺院や僧侶にあるいは投資家とかに買収されていくこともあり得るのかもしれませんが。新興の日本の宗教ではなくむしろ外国人僧侶たちの布教力が今の日本人の心を驚掴みにして攫(さら)っていくこともあり得るのではないかとそんな予感さえしてくるほど彼らには魅力があります。外圧によって今 日本仏教は原点回帰をして再興をする時です。本物を目指す寺院や僧侶は今まさに浮かばれていく時です。大再編時代に来ているため実力のある僧侶にとっては待ちに待った時期の到来です。当院の所属僧侶は生活や仕事に困っている人は一人もなく全員が毎日生き生きとして笑顔で暮らしています。幸せそうです。愚痴を言っている人もいません。とにかく忙しくしています。充実仕切っています。追い風を受けて波に乗っています。一人一人は自立をして我が道をまっしぐらに生きています。コロナ禍は人を差別化します。因果によりふるいにかけてられます。当院に出入りをしている人はみなさん余裕があります。よき人生を得ています。これから当院はますます好人物が押し寄せて見違えるような発展を遂げると思えます。人材不

足 人手不足などどこ吹く風、選び放題にもなること請け合いかもしれません。

いる人 いない人がはっきりしてきます。資格やスキル、仕事力はますます重要となりますので茹でガエル世代や人物は淘汰されます。潰しの効かない人はお荷物になります。どんどんオープン AI に取って代わられていきます。職人や資格者、技術者になることが重要です。余人を持って変え難い存在になることは難しくてもこの人には居てもらいたいと周囲に思ってもらえることはとても大切です。胸を張って報酬や給料をもらえるような仕事は最低でもしないとイケません。禅宗では「一日作さざれば一日食らわず。」(百丈禅師)とされています。人間は努力をし差し出したもの以上のことを得ることはできません。すべて自業自得です。因果応報です。自らが蒔いた種を拾うだけのことです。より一生懸命に働いてもらおうと報酬や給料を敢えて多くしてもほとんどの人は変わり映えはしないというのが私の経験上の結論です。本当の人材人物と言える人は有償でも無償でもやってくれる人です。目先の損得で動かない人です。奉仕が先、利益はあとという理屈や真理がわかっています。それが人材というものです。真人とは与え続ける人のことです。求めないものを求める人のことです。それが徳です。損して得とることです。私も今年からは成果主義 実力主義を採用して公平に判断していくことにしました。ぶら下がりや極力的に整理します。経営者にとって足を引っ張っている社員、職員をどのように上手く片付けたりその気

にさせたりするかは一つの手腕です。だいたい一年半以上いて結果を出せていない人、役割のない人、戦力になっていない人、やることがない人、仕事を依頼されない人はいない人です。特に見性院の場合は必殺仕事人しか必要ありません。これからは特にです。今の輝かしい寺院に合った人たちに来て欲しいものです。本堂大改修後の運気の上昇は目を見張るものがあります。予想通り活気付いており盛り上がっています。収穫期 円熟期にもあるため日々 それを楽しみたいと思います。そのために高僧らが来られるのかもしれませんが。是非とも海濤法師との対談を動画でご覧になっていただきこれから生きるヒントにしていただきたいと思います。かつて開祖道元は万里の波濤を超えて宋に渡りました。6年の留学修行を終えて帰国しました。空手還郷(くうしゅげんきょう)にして柔軟心のみを持ち帰ったと述べておられます。その後 京都から越前へ 少数精鋭主義と深山幽谷修行を選択されました。これが曹洞宗の原点です。

私たちが今もっとも必要なことは本物に触れることです。

もうあとはありません。

ここからです。

合掌
令和5年5月10日
見性院住職